

NIJ I PROJECT 2020

- 学びに向かう力 -

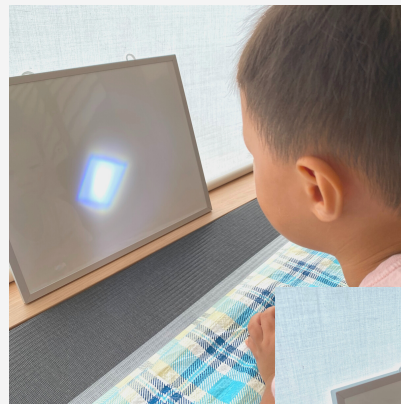
忍岡こども園



虹って何でできているんだろう？

新型コロナウイルスによる登園自粛期間が明け、6月から本格的に登園が始まった。少しずつ集団生活に慣れ始めた頃に、2歳児クラスで「にじ」の絵本を用意し歌を楽しんでいると、子ども達から「虹を作りたい」と声が上がった。当初は制作で虹を作りたいと考えていたが、作って終わってしまうのではなく、更なる興味関心に繋げていきたいと思うようになった。室内で虹を作れることを知り、実際に室内でペットボトルやホワイトボード、懐中電灯を使って虹を作ってみた。

すると「きれい」と目を輝かせ、自分の知っている色を見つけて友だちや保育者に嬉しそうに話をしたり、保育者が言葉にした「光の反射」という言葉に興味を示したりする姿が見られた。保育者としては「虹」に興味を持てるように導入したが、子ども達は色や光に対する興味を強く持っていた。その為、保育の中で子ども達の反応に合わせた活動を取り入れた保育を展開したいと思った。



虹から始まる継続性のある保育の展開

① 室内で虹を表現

水の入ったペットボトルに懐中電灯を当て、ホワイトボードに光が反射すると虹色が映り、子ども達がその中で様々な色があることに気付けるようにした。

② 色遊び

○色水遊び

「赤」「青」「黄」の3色の色水を用意し、保育者が色を混ぜて「オレンジ」「紫」「緑」ができることを伝えた。その後、色水遊びを行い、自分で色を混ぜて色の変化を楽しめるようにした。



○絵の具遊び

「赤」「青」「黄」の3色を用意し、手や足でダイナミックに色を混ぜて遊べるようにした。更に、ローラーやスポンジ、筒などの様々な道具を使って自由に表現できる環境を整えた。

③ キラキラ望遠鏡作り

紙コップとトレーシングペーパー、カラーセロハンでキラキラ望遠鏡を作り、園内散策をしたり散歩先に持って行ったりした。



虹から色へと興味関心の広がりを見せた子ども達

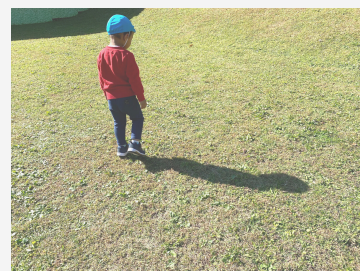
ホワイトボードに光が反射し虹色が映ったのを見た事により、色に興味を示すようになった。

実際に3色の色水を使って赤と青を混ぜると紫になる事を知ると、自分も新しい色を作り出したい気持ちが見られるようになり、色水遊びや絵の具遊びを通して色に関する興味関心が深まった。また、きっかけとなった光の反射を使った虹の出来事を覚えており、食事の際に、天井に動く影を見つけると「光の反射」と声をあげ反応していた。



学びに向かう力を育むには

光について興味が深まった為、次は影に興味を持つのではないかと予想をし、興味を持てるように準備していたが、興味を示す事はなかった。しかし、暫く経った時に保育者が影遊びを始めると興味を示し、自分に影が付いてくることに気づき、光と影を使い影が写る場所を探して、影遊びを楽しむようになった。



保育者が子どもの気づきに対応できるよう多様な環境を準備したとしても、すぐに反応や成果が見えない事が多い。しかし、その後の生活や遊びに学んだことが活かされており、保育者として学びに向かおうとする姿を捉え、子どもの興味関心に合ったアプローチを行う事が、学びに繋がると感じた。

夏季に行った絵の具活動が、現在は色彩感覚に繋がり、制作や絵を描く際に、自分で考えながら色を重ね色合いを楽しんでいる。その様子を見て、子どもの声を聞き興味を持ったことに共感し、広げる事が大切だと思った。今後も学びに向かう力を育ていけるよう、様々な事を想定し、子ども達の興味関心を拾えるようにしていく事が重要である。